◎福祉事務所

■地域生活支援事業
（27万9千円）
国庫・県費社会福祉費補助金「日中一時支援事業」利用者の数、回数、時間等利用が多くなりました。

補正予算歳出

◎企画財政課

■ネットワーク推進事業
（3588万2千円）
庁内LAN用システム構築運用委託（新規）1924万4千円、庁内LAN用機器購入1663万8千円。
庁内LAN用システム構築運用委託料は、平成24年度より平成29年度まで5年間の債務負担行為で行います。
事業予定額8386万9千円の範囲内で庁内LAN用システム構築運用委託契約を平成24年度において締結し、平成24年度予算計上額1924万4千円を超える金額6462万5千円については平成25年度以降において支払います。

◎総務課

■庁舎建設基金
（5000万円）
庁舎建設基金積立金、積立基金残高は、5億1742万9128円と成りました。

◎市民課

■防災施設等整備事業
（480万円）
避難地（下田幼稚園）防災対策事業設計業務委託費です。

防災施設等整備事業　下田幼稚園

■下田市長選挙事務
（減額1003万円）
6月24日執行予定の下田市長選挙が無投票になった事による、不用額の減額補正です。

◎学校教育課

■認定こども園建設事業
（4694万7千円）
認定こども園建設用地造成工事の6500万と、認定こども園実施設計業務委託の入札差金による減額1880万4千円と、建築確認申請手数料の55万1千円と、開発行為許可申請手数料の20万円です。

産業厚生常任委員会

委員長　岸山久志
副委員長　小泉孝敬
委員　鈴木　敬　沢登英信
　　藤井六一　土屋　忍
　　増田　清

条例

下田市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部改正は、リサイクル家電は現在松崎の処理業者へ運搬していたが、その業者が営業を辞めたため、伊東市へ運搬する事になり、持込手数料が改正されました。テレビ・洗濯機は500円が1000円に、エアコンは700円が1500円に、冷蔵庫は900円が2000円になります。

一般会計

議第38号
平成24年度一般会計補正予算（第5号）

◎健康増進課

■予防接種事業
（207万円）
高齢者肺炎球菌予防接種の扶助費として1人3000円の補助がされます。

■ふじのくに安心地域支え合い体制づくり事業
（118万8千円）
高齢者のささえ合い安心して生活できる体制、地域コミュニティの問題解決の勉強会を開催します。

■認知症施設総合推進事業
（311万9千円）
認知症の方への支援推進員の派遣、家族との相談会、講演会の開催などをします。

◎環境対策課

■簡易給水施設整備事業
（250万円）
田牛海の郷の圧送ポンプが老朽化したためポンプ取換えの補助です。

◎産業振興課

■農業振興事業
（147万3千円）
青年就農給付金（150万円）は一定の要件をみたし農業を起業した45才未満の方に国から補助金が給付されます。現在2名の方に後期分として各75万円を支給。起業から5年間支給されます。

■基幹集落センター管理運営事業
（73万円）
基幹集落センター2階の照明の修繕費です。

■有害鳥獣対策事業
（149万円）
鳥獣の駆除とイノシシ捕獲の箱ワナ5基と電気柵設置の補助金です。

■商工業振興事業
（120万円）
空店舗対策として旧町内たるや跡を借り、観光客への情報等の提示をする場を出店します。（地域商業パワーアップ事業）

◎観光交流課

■観光振興対策事業
（減額50万円）
外浦海岸のフロートの取

◎生活保護事業の扶助費は268世帯325人に5億2414万9917円であり、保護率は13・26％と県下で第3位である。扶助費のうち、医療扶助費が50・9％、生活扶助費が30％となっている。世帯のうち、高齢者世帯が61・1％、傷病者世帯が15・9％である。また、生活保護世帯では、単身者世帯が223世帯と84・2％を占めている。平成23年度に開始した保護件数は、55世帯63人。廃止した件数は26世帯35人である。

◎死亡原因では、3人に1人が「がん」によるといわれている今日、がん検診の推進が重要である。平成23年度では大腸がん検診を2660人が受診し、2155人が要精密検査の診断を受け、その内「がん」であった者が7人、「がん」の疑いのある者が3人、他の疾患であった者が105人であった。早期発見により助かる命も多いと聞く。一層の受診率向上が望まれる。

◎アルミ缶、古紙などの有価物については、分別収集が定着し大きな効果を上げている。特に古紙売却額については後期（10月～3月）の単価が上った。引き続き適切な入札を実施されたい。

◎大沢地区産業廃棄物監視委員会については9回の委員会や多くの監視業務の実施により搬入量等の協定違反もなく効果を上げている。

◎有害鳥獣防除については、農作物の被害が年々増加している事は猪、鹿、野猿が大幅に繁殖しているためと思われる。賀茂猟友会と委託契約を結び駆除すると共に農業者には設置する電気柵、防護柵に対し原材料費分を補助している。なお一層の駆除の為にわな猟免許取得者等を増し、後継者不足を補い、あらゆる対策の強化が望まれる。

◎林業振興事業については、切り出した木材で間伐材等利用促進活性化業務としてベンチをつくり、各所の公園に配置した。

◎松くい虫防除事業については伐倒駆除、防除剤地上散布、予防剤注入等毎年実施しているが、松の木は減少している。松くい虫に強い黒松まで被害が出て来ている中、塩害の影響も考えられるが、他の対策も考える時期にきている。

◎道路維持に対し、地域からの要望は毎年約150件あり、健全な維持管理を目的とし、道路整備に係る工事53件を3600万円で施工し、修繕58件を322万円で行った。また19件の原材料として100万円分を支給した。

◎景観推進事業として景観を活かしたまちづくりを推進するため、条例に基づき登録まち遺産の簡易修繕に対し安直楼、雑忠、土佐屋の3件に124万5千円の補助を実施した。

◎地震対策として個人の耐震対策を推進するため、専門家診断100件を450万円で行った。また補強計画策定に3件28万8千円、耐震補強に3件110万円の補助を各々実施した。なお、耐震化されていない木造家屋がまだまだ多く今後の対策が急がれる。

◎東日本大震災の影響による電力不足への懸念、イベント自粛、海水浴場に対する放射能汚染の風評等により、観光交流客推計数は238万9979人（対前年度比59万7571人減）宿泊客推計数は76万3957人（対前年度比4万1982人減）と前年を大きく下回った。

◎あじさい祭において本年度より下田カントリークラブの協力を得てゴルフカートによる公園入り口から開国広場までの送迎運行を実施し、入場者の利便性向上に努めた。期間中の来場者推計数は11万2800人（対前年度比3万9600人減）となった。

◎爪木崎水仙園整備計画に基づき水仙球根の捕植や園路整備を図ったが、1月20日、21日の強風により水仙に大きな被害が生じたことが影響し、本年度水仙まつりの入込客推計数は22万4千人（対前年度比17・0％減）となった。

◎静岡県の地域人材育成事業の補助を受け、NPO法人下田にぎわい社中に委託し伝統芸能継承者の育成を図った。旧澤村邸の利用促進にも寄与され概ね良好な事業であったが、今後は更なる継承事業及び観光事業への取り組みが望まれる。

◎伊豆半島ジオパーク構想推進のため県観光施設整備事業の補助を受けジオサイト説明看板の設置及び田牛竜宮窟・サンドスキー場の手摺設置を行った。今後はジオパーク構想と連携し自然環境保全と観光産業への活用、人材育成等、広域的かつ持続的な事業の推進を望む。

◎観光施設建設費として4838万7949円が執行され、市民文化会館前公衆トイレとペリーロード公衆トイレ等の整備を行った。専門知識を有する建設事業にも拘らず技術職員の未配置等による執行の不備も指摘され、同様事業を行う上での組織機構に関しては見直しが強く望まれる。また、当事業により整備された2施設については適切な運営管理をはかり、今後の観光振興への寄与を期待する。

◎東日本大震災を受け、学校及び地域における防災教育を再考し、避難経路や防災マニュアルの見直し、各地域協働での避難訓練の検討及び実施等、各地域、学校の実情に応じた防災教育に取り組んだ。地域防災における児童生徒の安全安心の確保は必須であり今後もより充実した防災対策を強く望む。

◎公立保育所と民間保育所における保育料の滞納者が多く、利用者負担の公平性を図る上でも今後の改善対策を強く望む。

ジオサイト説明看板　田牛